様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年６月１１日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：１９５１０２６９
研究課題名（和文）　第二次大戦下の日本人軍属と欧米女性―トランスナショナル・ヒストリーをめざして
研究課題名（英文）　Japanese Civilian Employees and European Women during World War II ―Toward a Transnational History

研究代表者
有賀　夏紀（ARUGA NATSUKI）
埼玉大学教養学部・教授
研究者番号：２０１１４３５８

研究成果の概要（和文）：　第二次世界大戦下のインドネシアにおいて日本人軍医と結婚したヨーロッパ女性とその周辺の人々（オランダ在住）の聞き取り調査を行い、これをとりまとめ、今後の研究のためのデータを作成した。このデータを主な一次史料として、この女性のライフヒストリーを中心に、ジェンダー史、国際関係史、社会史、トランスナショナル・ヒストリー、日本史、社会思想史に、人間の個人的な感情を含み混む新しい歴史を叙述しつつある。

研究成果の概要（英文）：　Interviews of a European woman who married a Japanese military doctor in Indonesia and other European and Japanese people who had contact with her were conducted. The data collected by these interviews will be primary sources for constructing a new kind of history, which is written from multiple perspectives of gender, international relations, social history, transnational history, Japanese history, social intellectual history and human emotions.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２００８年度	800,000	240,000	1,040,000
２００９年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：複合新領域、社会史・西洋史・ジェンダー史
科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー
キーワード：(1) ジェンダー　(2)国際結婚　(3)トランスナショナル　(4) 第二次世界大戦　(5) 人種　(6)インドネシア　(7)オランダ　(8) 歴史叙述

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

１．研究開始当初の背景

近年、アメリカ占領軍兵士と被占領国女性の関係に関する研究が増えているが、それは白人兵士と非白人女性、あるいは白人同士の関係である。第二次大戦下に旧ヨーロッパ植民地を占領した日本人軍人・軍属とヨーロッパ女性との間にも親密な関係が生じたが、これに関する研究は皆無に近い。この問題には、国際間の力関係を背景にしたジェンダーや階級の要素だけでなく、人種の要素が大きくかかわっている。男性が白人（あるいは黒人）である場合だけでなく、男性がアジア系で女性が白人である場合の男女の関係の実態も把握した上で、初めてジェンダーと人種、そして階級の絡み合いが明確に理解できる。こうした私的な人間関係に関する文献史料は少なく、聞き取り調査によって集めるのが重要になるが、当事者は現在高齢になっており聞き取りを急ぐ必要があった。たまたま、戦時下のインドネシアで日本人軍医と結婚したヨーロッパ女性を親しく知っていたことから、初めは、彼女の経歴に興味を持ち、その貴重な経験を聞いて、上記のような研究上の関心とつなぎ合わせたいとの願いから、この研究が出発した。

２．研究の目的

研究目的は、（１）第二次世界大戦下の日本人軍人・軍属と日本軍占領地域における欧米女性の関係を、ジェンダー、人種、国際関係など多角的な視点から追究し、その実態を明らかにすること、（２）戦争とジェンダー・セクシュアリティの関係についての理論的枠組をつくること、（３）他国間、他人種間のジェンダー・性関係を実証的理論的に研究することを通じて、多文化主義、トランスナショナルな視点から歴史を構築することにある。具体的には、ひとりのヨーロッパ女性のライフヒストリーを通しての検証を試みようとした。そのために、その女性、およびその周辺の人々の聞き取り調査を精力的に行った。

３．研究の方法

A.　資料の収集・調査

（１）　聞き取り調査

対象は以下のとおりである

①　第二次大戦下インドネシアで日本人軍医と結婚したヨーロッパ女性

②　同時期にインドネシアに滞在したオランダ人および他のヨーロッパ人

③　①の女性が戦後来日してからの親しい友人

④　①の女性の家族

（２）　一次文献調査

①　外務省文書

②　インドネシアでの調査（未実施）

③　同時期にインドネシアに滞在した人々の手記

（３）　現地調査

①　女性が生まれ､住んだオーストリア、オランダ（2008 年、2009 年実施）

②　インドネシア、スマトラ島、ジャワ島（未実施）

B.　資料の分析、叙述のために

以下の二次文献の調査

①　歴史理論に関する研究（ジェンダー、戦争、社会史、その他感情の歴史など）

②　第二次大戦中期、戦後期に関する一般的文献

③　ヨーロッパ史、インドネシア史、日本史、国際関係史

４．研究成果

本研究は、ここ数十年におけるアメリカ史研究展開の最先端の動きを反映させたものである。特に人種・民族、ジェンダー、階級の要素から見る多文化主義の視点に立ち、さらにこうした

多文化主義に加え、トランスナショナリズムの視点を導入した新しい歴来研究である。具体的には、太平洋戦争下から戦後にかけての日本人軍人・軍属と日本軍占領地域における欧米女性との関係をテーマにする。これまで、戦後日本やドイツにおけるアメリカ占領軍兵士と現地女性の性の問題について、「戦争花嫁」の問題として研究が積み上げられてきた。また、近年日本人兵士に向けて提供された従軍慰安婦の研究も大きな成果をあげてきた。これらの研究は、すべて、白人（あるいは黒人）男性とアジア系女性、白人（あるいは黒人）男性と白人女性、日本人男性とアジア系女性の関係を扱っている。しかし、戦時下におけるジェンダー・性と人種の関係を明らかにするには、視点を広げ、白人女性と日本人男性の関係も含める必要があるが、この研究はほとんど行われていない。本研究では、「戦争花嫁」としての白人女性に焦点を当て、聞き取り調査や二次文献調査を通して、これまでの「戦争花嫁」や慰安婦の研究で明らかにされてきた軍隊と性の関係が含む問題を掘り下げた。すなわち、占領国支配下の国際的力関係のなかでの、ジェンダー、人種・民族、アジアにおける日本軍占領地における社会関係、経済関係などである。またさらに、国際結婚、混血児、文化摩擦、日本と欧米の文化的社会的関係などの問題が具体的に明らかにされた。今回、歴史叙述の上で出てきた予想外の問題があった。それは、愛情つまり感情を、歴史を構築する上でどう取り込むかということである。現在は、蓄積された膨大な史料を整理し当該女性のライフストーリーを中心とした歴史の叙述を始めたところであるが、完成すれば、以下の点で学界だけでなく一般の関心も集めることができると思う。

① 第二次世界大戦下の白人女性と日本人軍人・軍属の関係の実態を明らかにしている。

② 国際関係の枠組みの中に、すべての人間が持つ感情という要素を取り込んだ歴史であることで、方法論的に新しい。

③ ライフヒストリーの意義についての示唆を与える。

④ 社会史が追求する普通の人々（本研究では白人女性と日本人軍属）の経験に基づく歴史（本研究では第二次大戦中・戦後の歴史）構築の例を示す。

⑤ ヨーロッパ、インドネシア、日本にまたがる人間の移動に焦点を当て歴史をとらえるトランスナショナルな研究である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

１．有賀夏紀、書評『アップルパイ神話の時代』、国立女性教育会館研究ジャーナル、査読無、14 巻、2010、1630-165.

２．有賀夏紀、アメリカ・フェミニズムの現在―第三波フェミニズムなのか、アメリカ・ジェンダー史研究入門、査読無、2010、299-317.

３．有賀夏紀、書評：河村貞枝、今井けい編『イギリス近現代女性史研究入門』、女性史学、査読有、17 巻, 2007, 101-104.

４．有賀夏紀、シスターフッド―その意味と限界、ジェンダー史学、査読有、3 巻、2007、69-73.

５．有賀夏紀、Introduction: American Studies in Trans-Pacific Perspective、*The Japanese Journal of American Studies*、査読無、Vol.18、2007、37-39.

６．有賀夏紀、Who Can Be Embraced by America's Civil Religion? *Nanazan*

科学研究費補助金研究成果報告書

Review of American Studies、査読無、Vol.29、2007、pp.61-68.

〔学会発表〕計（3 ）件

1．有賀夏紀、Is a Japanese Perspective Useful for Studying about America?: The Case of Child Labor during World War II（会長講演）、アメリカ学会第 44 回年次大会、2010 年 6 月 5 日、大阪大学。

2．有賀夏紀、アメリカ史研究の変遷と女性移民史――アメリカ例外主義、多文化主義、トランスナショナリズム、グローカリズム（基調講演）、日本移民学会、2008 年 8 月 2 日、日本女子大学。

3．有賀夏紀、Comment: Who Can Be Embraced by America's Civil Religion? 名古屋アメリカ研究サマーセミナー2007 年 7 月 30 日南山大学。

〔図　書〕　計（　4　）件

1．有賀夏紀・小檜山ルイ編著、青木書店、アメリカ・ジェンダー史研究入門、2010、1-346

2．有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎編著、山川出版社、アメリカ史研究入門、2009、3-398.

3．島田法子編著、有賀夏紀共著，明石書店日本の女性移民史の発掘、2009 年、17-44.

4．久保文明・有賀夏紀編著、ミネルヴァ書房、個人と国家のあいだ、2007、 1-400.

6．研究組織

(1)研究代表者

有賀　夏紀（ARUGA　NATSUKI）

埼玉大学・教養学部・文化科学研究科教授（2010 年 3 月まで）、名誉教授（2010 年 4 月より）

研究者番号：２０１１４３５８

(2)研究分担者

なし